

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 八木橋 慶一	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>① 研究活動</p> <p>平成 28 年度は、科学研究費補助金（基盤研究 C）の「英国高齢者パーソナライゼーション政策における意思決定困難者支援に関する研究」（代表：八木橋慶一）の 2 年目であり、本調査に取り組んだ。平成 29 年 3 月に渡英し、現地において関係機関の視察、研究者や社会的企業関係者、高齢者福祉サービスの実務家へのヒアリングを実施した。本調査から、英国でのパーソナライゼーション政策の背景にある実態、公共サービス削減の関連機関への影響などを把握することができた。</p> <p>成果物としては、『地域政策研究』第 19 巻 2 号（高崎経済大学地域政策学会）に「『社会的企業』の起源についての一考察 ——イギリスを事例として——（1）」を掲載した。これは平成 27 年度の学内競争的資金の研究成果である。</p> <p>② 教育活動</p> <p>平成 28 年度は、前年度に引き続き「NPO 論」（前期）、「社会起業論」（後期）、「コミュニティビジネス論」（後期）の 3 つの講義を担当した。講義では、理論や著名な事例を紹介するだけでなく、実務家をゲストスピーカーとして招聘し、それぞれの団体における具体的な活動を紹介してもらう機会を設けた。NPO 論では 1 回、社会起業論とコミュニティビジネス論では各 2 回、高崎市内や群馬県内、関東圏で活躍する NPO 法人や社会的企業の代表者に実務経験に基づく講演を行ってもらった。講演後は学生にレスポンスシートの提出を求めた。それらの内容から、学生が非営利組織やソーシャルビジネスの実態を深く理解できたことを確認した。</p> <p>またゼミ形式の科目として「初年次ゼミ」（前期）と「演習 I」を担当した。初年次ゼミでは、1 年生に大学における学習の作法、口頭発表の技術などについて指導を行った。「演習 I」（3 年ゼミ）では、次年度での卒業論文の作成に向けた準備として、専門文献の輪読、グループ別のヒアリング調査を行ってもらい、論文執筆に必要な知識や情報を学生が習得したことを確認した。</p> <p>そのほかには、「演習 I」への準備として、ゼミに決定した 2 年生を対象とするプレゼミを月 2 回の頻度で開催した。基本文献の輪読を行うことにより、学生は基礎知識を習得できた。</p> <p>③ 学内業務・社会活動など</p> <p>学内業務では、大学附属地域科学研究所の研究委員長として、研究所の研究関連業務に携わった。また、国際交流センターの委員として、海外留学や留学生支援など関連業務にも携わった。そのほか、株式会社フロムページ主催の高校生向け大学紹介イベント「夢ナビライブ大阪」において、「社会貢献とビジネスの両立は可能？」の講義を行った（6 月 18 日）。高校への出前授業も一件担当し、群馬県立桐生高校に出講した（12 月 7 日）。講義名は「ソーシャルビジネスと地域おこし」であった。</p> <p>社会活動では、日本政策金融公庫高崎支店が中心となり、高崎商工会議所などと連携して発足させた「高崎ソーシャルビジネスサポートネットワーク」の顧問を引き続き務めた。同支店主催の「ソーシャルビジネス支援セミナー」において、「国際比較から見たソーシャルビジネス」の講演を行った（12 月 8 日）。また、群馬県不動産鑑定士協会一</p>	

般公開講演会の講師も務め、「地方創生とソーシャルビジネス」の講演を行った（11月24日）。そのほかには、藤岡青年経営者協議会の招待により、親睦研修会講演「地域貢献のツールとしての「コミュニティビジネス」」の講演を行った（平成29年2月23日）。

2 その他の事項

特になし。

3 次年度以降の計画・抱負

- ① 科研調査の成果をまとめ、公表する。
- ② 上記以外に継続して行っている研究の成果をまとめ、論文として発表する。
- ③ 卒業論文作成のために、演習Ⅰと演習Ⅱのそれぞれできめ細かい指導を行いたい。